

**岡山県における  
リハビリテーション専門職による  
市町村支援報告書  
(2018年～2020年)**

**岡山県**

**作成委託：岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会**

## 目次

はじめに .....	1
会長あいさつ .....	2
略語一覧 .....	3
第1章 リハビリテーション専門職による市町村支援のしくみ .....	4
1. 会の発足に至る経緯 .....	5
2. 市町村支援のしくみ .....	10
3. 当会の概況・設置目的・趣旨 .....	12
第2章 活動の概要 2018年～2020年の活動の歩み .....	14
1. 活動内容 .....	15
2. 市町村支援派遣実績 .....	21
第3章 市町村支援の現状と課題 .....	26
1. ブロック活動報告	
(1) 備前ブロック .....	27
(2) 備中南ブロック .....	33
(3) 備中北ブロック .....	36
(4) 美作ブロック .....	39
2. 市町村支援の実際	
(1) 同行訪問／吉備中央町 .....	43
(2) 地域ケア個別会議／新見市 .....	45
(3) 通所支援／美咲町 .....	49
(4) 研修講師／倉敷市 .....	53
3. 市町村支援のポイント	
(1) 真庭市 .....	59
(2) 吉備中央町 .....	63
4. 市町村支援のモデルケース	
(1) 総社市 .....	67
(2) 真庭市 .....	77
(3) 津山市 .....	82
(4) 倉敷市 .....	86
(5) 浅口市 .....	89

第4章 県事業への協力 .....	94
1. 介護予防交流フォーラム .....	95
2. 通所付添サポーター養成講習 .....	98
第5章 ワーキンググループ活動報告 .....	104
1. スタートアップ研修企画・運営チーム .....	105
2. 医療情報検討チーム .....	110
3. 専用サイト運用チーム .....	115
4. ST 活用提案チーム .....	119
第6章 研修実績報告 .....	122
1. スタートアップ研修実績報告(2018～2020 年度) .....	123
2. スタートアップ研修 県外講師 資料再録 .....	125
執筆者一覧 .....	149

# 1 はじめに

平成 27(2015)年の介護保険制度改正により、それまでの介護予防訪問介護と介護予防通所介護は、市町村が実施する介護予防・日常生活支援総合事業に移行され、市町村が主体となって、要支援者等軽度者の自立を支援するとともに、高齢者が担い手として活躍できる地域づくりを進めています。

岡山県では、この制度改正の趣旨を踏まえ、市町村の取り組みを支援するために、高齢者が人と交わることや役割をもつことを通じて、できるだけ長く活動的な状態を維持できるように、高齢者の地域活動への参加を促進し、地域ぐるみで取り組む介護予防を推進しています。この介護予防の取り組みには、高齢者の有する力の見極めや、力を発揮できるようにするための環境調整など、リハビリテーションの視点が必要となります。

このため、岡山県理学療法士会、岡山県作業療法士会、岡山県言語聴覚士会の職能団体の協力のもとに広域的に調整を行い、市町村の求めに応じて支援するしくみを構築し、約 6 年が経過しました。

この報告書は、岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会の平成 30(2018)年度～令和 2(2020)年度の歩みをまとめたものです。これまでの支援実績、市町村支援の実際、県内各ブロックの活動、ワーキンググループの取り組み、県事業への協力についてご紹介しています。

高齢者が地域の中で、生きがいや役割をもって健康長寿を全うできる地域づくりに、この報告書を役立てていただくとともに、これから市町村支援に関わろうとするリハビリテーション専門職の参考書として活用されることを願っています。

令和 3 年 3 月

岡山県保健福祉部長寿社会課

## 2 会長あいさつ

岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会会長 國安勝司

本連絡会は平成 27(2015)年 8 月に岡山県理学療法士会、岡山県作業療法士会、岡山県言語聴覚士会が合同で設立し、岡山県および市町村と連携し、各市町村における介護予防の取り組みを強化するためにリハビリテーション専門職の参加・活用を促進するための活動を行ってまいりました。平成 29(2017)年には設立から 3 年間の活動実績をまとめた報告書を作成いたしました。今回はその後平成 30(2018)年から令和 2(2020)年までの 3 年間の活動実績をまとめた報告書となります。

ご存じのとおり、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に向け、地域包括ケアシステムの構築が各地域で推進され、様々な取り組みがなされています。高齢者が要支援・要介護となることを予防することが重要な課題となっており、そのためリハビリテーション専門職の関わりが強く求められるようになっております。

市町村事業へのリハビリテーション専門職の派遣依頼は徐々に増え、市町村もさまざまな工夫をしながら、事業展開をされておられます。令和 2(2020)年度は 17 市町村から延べ 380 件を超える依頼がありました。そのニーズに適切に応えられるように市町村事業に参加するために必要な基本的知識を得る「スタートアップ研修」の受講者は延べ 640 名を超え、協力できる会員も増えております。また県内を 4 つのブロックに分け、ブロックごとに 3 職種(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)のリーダー、サブリーダーを配置し、それぞれの地域でのフォローアップ体制も整ってまいりました。さらに本連絡会の活動に熱心に協力してくれる若い会員が増え、非常に心強く思っております。

今までの 6 年間の活動の振り返りを行い、課題を整理しより良い支援体制とするために、前回の報告書と併せて、今回の報告書が役に立つことを願っております。

今後も本連絡会は、地域包括ケアシステムが有効に機能することを願い、介護予防事業、地域ケア個別会議への参加など、リハビリテーション専門職として、より良い取り組みになるよう活動していきたいと考えております。

## 略語一覧

本報告書では、本編内や図表において特別に表記する場合を除き、以下の語句について全編で統一した略語を用いている。

<正式名称 → 略称>

岡山県保健福祉部長寿社会課 → 長寿社会課

岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会 → リハ団体連絡会

リハビリテーション専門職 → リハ職

理学療法士(Physical Therapist) → PT

作業療法士(Occupational Therapist) → OT

言語聴覚士(Speech-language-hearing Therapist) → ST

介護支援専門員/ケアマネジャー → ケアマネ

新型コロナウイルス感染症(COVID-19) → COVID-19

国際生活機能分類 → ICF

生活の質/人生の質(Quality of Life) → QOL

日常生活動作(Activities of Daily Living) → ADL

手段的日常生活動作(Instrumental Activities of Daily Living) → IADL

## 執筆者一覧

- 第1章 1. 2 岡山県保健福祉部長寿社会課  
3. 岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会 國安勝司
- 第2章 1. 一社)岡山県言語聴覚士会 太田千明  
2. 岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会事務局 齋藤真実子
- 第3章 1. 備前市保健福祉部介護福祉課地域包括支援センター 岸本直子  
医療法人萌生会国定病院 鎌田浩幸  
株式会社アール・ケア 大塚啓介  
社会福祉法人日本原荘 内田智之  
2. 吉備高原医療リハビリテーションセンター 村上達郎  
医療法人思誠会渡辺病院 小林まり子  
長谷川記念病院 戸倉健  
内田整形外科医院 初岡寛幸  
川崎医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科 大坂裕  
3. 真庭市役所健康福祉部高齢者支援課地域包括支援センター 山田優  
吉備中央町地域包括支援センター 小虎泰之  
4. 社会医療法人全仁会倉敷老健 寺中雅智  
社会医療法人緑社会金田病院 竹田和也  
社会福祉法人日本原荘 内田智之  
津山市役所健康増進課 安本勝博  
倉敷市立市民病院 酒井英顕  
医療法人萌生会国定病院 川崎信介
- 第4章 1. 岡山市立せのお病院 谷中則之  
2. 株式会社アール・ケア 岩下修
- 第5章 1. 済生会吉備病院 野上達矢  
2. 公益財団法人操風会岡山旭東病院 片岡孝史  
3. 井原市立井原市民病院 佐野裕和  
4. 介護老人保健施設あいの里リハビリ苑 齋藤真実子
- 第6章 岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会事務局 齋藤真実子